

地球惑星科学委員会地球・人間圏分科会  
(第25期・第1回) 議事要旨

- 1 日時 2020年12月26日(土) 10:00~12:00
- 2 方法 遠隔会議(国立環境研究所 Zoom がホスト)
- 3 出席者 阿部彩子、伊藤香織、植松光夫、沖大幹、小口高、奥村晃史、川口慎介、川幡徳高、川東正幸、久保純子、小嶋智、三枝信子、佐竹健治、篠田雅人、杉田文(幹事)、鈴木康弘(副委員長)、高橋桂子、寶馨、谷口真人、張勁(幹事)、佃栄吉、中田節也、中村尚、中谷友樹、西田治文、長谷部徳子、春山成子(委員長)、氷見山幸夫、平田直、益田晴恵、村山泰啓、森田喬、矢野桂司、山形俊男、

オブザーバ: 小森大輔

欠席者: 石川徹、井田仁康、近藤昭彦、斎藤文紀、津田敏隆、山川充夫

4 議題等

1. 第25期の役員の決定について
2. 議事録要旨の提出に関する委員長一任について
3. 分科会委員間のメールアドレス共有について
4. 24期の活動内容の確認
5. 25期の活動指針について
6. 25期の公開シンポジウム企画について
7. その他

5 配布資料

資料1 分野別委員会分科会(第25期・第1回)について

資料2 委員会等の議事要旨の公開等に関するガイドライン

資料3 メール審議の実施について

資料4 25期地球惑星科学委員会 地球・人間圏分科会名簿

資料5 25期地球惑星科学委員会 地球・人間圏分科会趣旨書

資料6 24期シンポジウム:

繰り返される災害ー少子高齢化の進む地域で生き抜くということー

資料7 24期シンポジウム:

地球環境変動と人間活動ー世界各地で急速に深刻化する地球温暖化の影響と対策ー

資料8 24期シンポジウム: グローバル時代のデータ利用と可視化

資料9 24期 報告 地球惑星科学分野における 科学・夢ロードマップ(改訂)2020

資料10 24期 提言 災害が激化する時代に地域社会の脆弱化を どう防ぐか

資料 11 シンポジウム企画1「水」と「水循環」の研究最前線—多分野協創研究で21世紀に挑戦する（仮称）

6 議事内容

議事に先立ち、世話人の春山委員より、本分科会の概要について説明がなされ、続いて委員名簿（資料4）に従って出席者による自己紹介が行われた。

(1) 第25期役員決定について

委員長：委員より春山委員が委員長に推薦され、承認された。

副委員長：委員長より鈴木委員が指名され、承認された。

幹事：委員長より杉田委員、張委員が指名され、承認された。

(2) 議事要旨の提出に関する委員長一任について

委員長より、当委員会の議事要旨の提出については、議事要旨の案を所属委員へ回覧したのち、日本学術会議へ提出する前の最終版の承認を委員長に一任することについて資料2に沿って説明がなされ、承認された。

(3) 分科会委員間のメールアドレス共有について

委員長より、資料3に沿ってメールアドレス共有が説明され、今後の委員会活動において委員間でのメールアドレスの共有を必要とすることが示された。分科会内でのメールアドレスの共有は承認された。

(4) 24期の活動内容の確認

資料6、資料7と資料8に基づき、委員長より第24期に開催された3つのシンポジウムが紹介され、本分科会は25期においても引き続き活発に活動していくことが呼びかけられた。

委員長より、「報告 地球惑星科学分野における 科学・夢ロードマップ（改訂）2020」（資料9）に関する紹介があった。地球人間圏科学の夢ロードマップでは「持続可能な日本、アジア、世界の実現への道」に向かう道筋を描き、推進すべき活動内容を3期に分けて描いたものであるが、第25期では実現に向けた具体的な活動が問われていることが確認された。

委員長より、「提言 災害が激化する時代に地域社会の脆弱化をどう防ぐか」（資料10）に関する紹介があった。本分科会と土木工学・建築学委員会 IRDR 分科会とで共同審議し、5つの提言項目を取りまとめて公表したものである。この提言について委員間で意見交換がなされ、第25期には本分科会を通じて、提言項目をより実効性あるものとして推進して行くこと、積極的に一般社会へ発信することが求められることが確認された。

氷見山委員より資料訂正の指摘があった。

資料9 ページ11、ICSU Global Challenge（誤）、ICSU Grand Challenges（正）

（5）25 期の活動指針について

第 25 期の活動方向について委員間において意見交換が行われた。沖委員から現在、日本学術会議幹事会で議論し始めている学術会議のあり方の見直しや、地球惑星科学委員会の位置づけの状況説明がなされた。地球惑星科学委員会は委員数、分科会や小委員会共に多いが、それは日本学術会議の科学の推進、社会と科学コミュニケーション、国際的な活動の 3 本柱の国際的活動の大部分を担っていると解釈され、世界と日本を学術的に結ぶ役割を果たしていることも確認された。委員間で議論が展開され、今後の第 25 期に本分科会を通じて、日本学術会議内外での超学際的な連携、古植物学関係の分科会などとの協働も視野に入れることが提案された。地球人間圏科学から一般社会への積極的な発信は喫緊性の高い課題であるという共通認識が確認された。本分科会は「人間」社会と自然との関わりを重要と考える分科会であり、今後、社会貢献分科会や若手アカデミー等との連携を強化し、また、国際的な活動を推進させて、社会への貢献の向上に尽力することを総括とした。

（6）25 期の公開シンポジウム企画について

資料 11 に基づき、杉田委員から半日公開シンポジウム企画案の紹介があり、2021 年 9 月頃に開催することで承認された。シンポジウム構成、演題、講演者の最終確定については、コーディネーターに一任することになった。

（7）その他

特に無し。